

FCC試験を受けてみませんか？

FCCって何？



FCCとは Federal Communications Commission の略で「連邦通信委員会」と言い、アメリカ国内の放送通信事業の規制監督を行なう機関です。

FCC はアマチュア無線や業務無線、放送などに関する免許の交付や更新の可否を決定する裁定権、放送通信に関する規則を制定する権利が与えられています。



図1 FCC ロゴ

FCC では、直接アマチュア資格試験は実施していません。試験はボランティア団体が行います。ちょうど日本で言うと総務省が FCC で、日本無線協会がボランティア団体のような関係です。

何ができるの？



アメリカ領内（アメリカ合衆国連邦政府により管理されている海外領土を含む）に旅行に出かけた際に「W6/J*8***」ではなく、**アメリカのコールサインで運用することができます。**

また、日本とアメリカ合衆国の間でアマチュア無線に関する相互運用協定を結んでおり、日本の無線従事者資格を持っていなくても、**FCC の資格をもとに日本でアマチュア局を開設・運用することができます。**仮に日本の無線従事者資格が第四級であったとしても、General クラスの FCC 資格を有していれば表 1 に示す通り、日本国内で第二級相当の操作が可能となりますので、運用周波数 10MHz や 14MHz、固定局の場合は空中線電力も 200W まで申請できるようになります。

日本	アメリカ	備考
第一級アマチュア無線技士	Amateur Extra	
第二級アマチュア無線技士	General	Advanced 含む
第三級アマチュア無線技士	現在は該当なし	Novice
第四級アマチュア無線技士	Technician	

表1 アメリカとの相互運用協定対比表

メリットは？



何よりも、**アメリカのコールサインを取得できます。**

また、アメリカ領内に旅行に行き「W6/J*8***」で運用する場合、あなたの日本の免許状で許されている範囲内ではしか運用できません。

例えば一アマだけれども日本国内では移動局しか許されていない場合、移動局の最大空中線電力は 50W なので、第一級は相互運用協定では Amateur Extra クラス相当ではあるものの、あなたには 50W までしか認められていないため、アメリカ領内でも 50W までしか出せません。運用周波数についても日本で認められているものの範囲内となります。（例えばアメリカは 7.0~7.3MHz が 40m バンドに割り当てられているが、日本で認められている 7.0~7.2MHz しか運用できません。）

FCC の Technician クラスを取得した時点で、アメリカ領内に出かけた際に「W6/J*8***」が使えなくなり、アメリカのコールサインで FCC の所持ライセンスクラスの範囲までしか操作できなくなりますが、**最上級の Amateur Extra クラス**を取得しておくこと、**アメリカ領内でアマチュアに許されている操作範囲が制限なく運用できます**ので、是非とも Amateur Extra クラスまでチャレンジして取得しましょう。

また前述の通り相互運用協定により、日本の無線従事者免許を取得していなくとも、日本で無線局を開設・運用することができます。

取得の条件は？



将来的にアメリカ領内に旅行に出かけたり、居住してアマチュア無線を運用する計画のあることが前提条件です。

受験をするにあたっては、次の3点が必要になります。

一つ目は、渡米計画を証明する意味合いから**パスポート**が必要になります。

アメリカ合衆国民であれば不要です。

二つ目は、FCC や ARRL (American Radio Relay League) からの郵便物を受け取ることが可能な住所が必要です。現在は郵便物が送付されることは滅多にありませんが、日本で FCC を受験する場合には**アメリカ領内の住所**が必須条件になっています。

アメリカ領内に親戚や友人・知人が居住していれば、住所をお借りできるか相談されると良いでしょう。そうでない方は P. O. BOX (私書箱) やオークション落札品・通信販売品の日本への転送サービスの住所などでも可能です。「海外転送サービス」などをキーワードに検索し、ご自身に最も適しているサービスを選択してください。

三つめは、**FRN (FCC Registration Number : 連邦通信委員会登録番号)** を受験前までに取得しておく必要があります。

アメリカの通信資格は包括免許となっており、FRN ひとつに取得資格が関連付けられます。日本のように資格ごとに異なる免許番号ではありません。

どこで試験をやっているの？



以前はアメリカ本土に行き受検をしなければならなかったのですが、先達の OM 諸先輩

方のおかげで現在は日本国内数チームにより定期的に各地で試験を実施しています。

北海道では**札幌市内のハムショップ「(株) フェイズ・サッポロ」**で、年に**4回程度実施**しています。

詳細は同店ホームページをご覧ください。

試験を実施している前述のボランティア団体名は「W5YI-VEC」で、チーム名は「札幌試験チーム」です。

どういう試験？



アメリカの資格なので受験申請書や試験問題・答案など、**すべて英語**です。

ですが VE (Volunteer Examiner : ボランティア試験官) は日本人なので**会話は日本語**です。ご安心ください。

FCC は現在、最下級から「Technician」「General」「Amateur Extra」の3クラスが受験できますが、日本とは異なり**最下級から順に合格していかなければなりません**。

試験問題は全問公開 (**クエッションプール**) されていますが、各クラスの問題は年をずらして4年ごとに更新されます。現在の問題数および有効期限は表2の通りです。また各クラスともモールス送受信試験は廃止されていますので、**四肢択一式の試験**となっています。

Class	Element	出題数	合格点	公開問題数	有効期限
Technician	2	35 問	26 問以上	412 問	2026 年 6 月 30 日
General	3	35 問	26 問以上	430 問	2027 年 6 月 30 日
Amateur Extra	4	50 問	37 問以上	603 問	2028 年 6 月 30 日

表2 各クラスの問題数・出題数および有効期限一覧

どうやって勉強するの？



前述の通りクエッションプールに、全試験問題が公開されています。

クエッションプールではクラスにより異なりますが、DOC・TXT・PDFなどでダウンロードすることができ、ご自身でプリントアウトしてテキストにします。

またクエッションプールと解答の解説を収録した書籍も販売しています。詳しくは「(株) フェイズ・サッポロ」にお問い合わせください。

どうしても日本語で勉強を進めたい方は、検索エンジンで「エクストラ養成ギブス」をキーワードに検索すると、JH7BZR/岩淵 OM が翻訳されました日本語のクエッションプールをダウンロードすることができます。ただし**試験は英語**で行いますので、日本語で勉強を進めた場合は英語に戻す必要があり、遠回りをすることになりますのであまりお勧めできません。

ある程度勉強を進めてから、模擬試験で腕試しをすると良いでしょう。

「W5YI-VEC 札幌試験チーム」で実施する試験は、表2に記す各クラスの出題数をクエッションプールの中から抽出して出題します。



図2 書籍および模擬試験ホームページ

「W5YI-VEC 札幌試験チーム」による FCC 試験は、年間4回程度を計画しています。**試験日時については「(株) フェイズ・サッポロ」ホームページにてご確認ください。**

試験材料の準備の都合上、プレ登録をさせていただきます。**当日申込や予約なしの受験は受け付けておりません。**

同店ホームページにて手続き方法をご確認いただき、受験申込は試験日の**1週間前までにプレ登録が完了**するよう、早めに申し込みをしてください。

なお、2023年度よりオンライン申請も可能となりました。申請手順については「(株) フェイズ・サッポロ」にお問い合わせください。簡易的な試験案内手順書を用意しています。

受験申込手順は？



受験日に必要なものは？



試験に先立って、当日は事前説明や身分確認などを行うため**開始の15分程度前を目処**に試験会場に入場してください。

必要なものは「**パスポート**」「**運転免許証など身分を証明できるもの**（パスポート以外）」「**筆記用具**」「**関数・数式メモリー機能のない電卓**（必要があれば）」「**受験料**」です。

受験料は**\$14.00/回**でアメリカドルでの支払いのほか、2500円/回程度の**日本円**でも支払い可能です。（為替により変動するため、日本円の金額は当日お知らせします）

電子マネーやクレジットカードでの支払いはできませんのでご注意ください。

試験会場ではVEの指示に従ってください。従わない場合は受験の中止並びに、今後の受験資格を得られない場合があります。

試験の採点は、答案提出後に VE が会場内で行ない、
その場で合否を発表します。

合否発表はいつ頃？



合格の場合、上位クラスが残っており且つ、試験時間内であればアップグレード（上位クラスの受験）可能です。（合格の場合の、当日アップグレード1回目は無料です）

不合格の場合、試験時間の範囲内であと2回まで再受験ができます。（再受験の場合は受験料が1回分追加され、試験問題は変わります）



合格したら？

その場で CSCE（合格証明書）を申し込み時に記載いただきましたメールアドレスに送信します。

試験結果などは、W5YI-VEC 札幌試験チームより、W5YI-VEC 事務局に電子データで送信します。

2022年4月19日より新規の免許発行や更新については手数料が発生します。

FCC は事務局から送付された申請書に基づき必要手続きを行い、準備ができ次第

申請者に直接、電子メールにて手数料の支払い方法等の手順をお知らせします。

申請者は申請番号ファイルが発行された日から10暦日以内に電子メールに記載された手順に従い\$35.00（2022.4.19現在）を支払います。

手数料が支払われた後、1～2週間で初めての方は免許証とコールサインが発給されます。

アップグレードの方は手数料が発生しないため、事務局での処理が完了次第新しい免許証が発行されます。

FCC は日本とは異なり従事者免許証のようなものは発行されません。ULS（Universal Licensing System）に登録されるPDF形式ファイルをダウンロードして自らプリントアウトし、印刷物に自筆でサインしたものが免許証となります。ダウンロード手順についても「(株) フェイズ・サッポロ」のホームページで紹介しています。

ご自身のスキルアップのためにも、是非とも FCC を取得しませんか？



その他、詳細については「(株) フェイズ・サッポロ」齊藤 (JA8EFI/W6IB) までお問い合わせください。



W5YI-VEC 札幌試験チーム



【お問い合わせ】

〒064-0922 札幌市中央区南 22 条西 11 丁目 1-31

TEL : 011-531-3515

e-mail : saito@phase-sa.com

担当 : 齊藤 (JA8EFI/W6IB)

(株) フェイズ サッポロ : <http://www.phase-sa.com/>

W5YI Group : <http://www.w5yi.org/>

2017年9月 作成

2024年9月 第十二版改訂